

名所・旧跡

大陸と日本本土の間、玄界灘に浮かぶ志岐の島は、東西15キロ、南北17キロのまるい平坦な島。ここには神々がすむ森と黒潮がはこんでくる豊かな海、そしてひとびとが怒りみ育む大地がある。

SPOT 04 志岐風土記の丘 古墳館・古民家園
歴史散策公園。園内には志岐にあった江戸時代の百姓武家の民家を移築した古民家園や国史跡「志岐古墳群」を紹介した古墳館の展示を見ることが出来る。

SPOT 07 鬼の足跡
志岐を代表する景観で、地元では、大鬼のデイが鯨をすくい捕るために踏ん張ってきた足跡で「鬼の足跡」と呼ばれている。

07



SPOT 05 ツインズビーチ
塩梅(しおたる)海水浴場と小水浜(こみずはま)海水浴場を合わせてツインズビーチと呼ぶ。小さな入江にある美しい砂浜の海水浴場。

SPOT 08 辰ノ島
弓状の浜辺は遠浅の白い砂浜で美しく、観光客には人気が高い。海浜植物群落や蛇ヶ谷など見所も多い。

08



SPOT 06 清石浜(くよしはま)海水浴場
芦辺港の南東に広がる約500mの美しい砂浜が清石浜である。シーズンオフにはサーフィンやボードウォッチング、ビーチコーミングなども楽しめる。

SPOT 09 岳ノ辻
標高212.8m。志岐島で一番高い山。約20万年前、玄武岩溶岩流の上に噴出した火砕屑物によって形成された火山砕屑丘(かさんさいせつつきゅう)。

09



02

原の辻遺跡

SPOT 02

『魏志』倭人伝に記された「一支国」の王都。大規模な多重環濠集落で、長崎県で2番目に広い平野(深江田原)を中心に約100ヘクタールにも及ぶ。国特別史跡に指定。

志岐市立一支国博物館

SPOT 01

志岐しまごと博物館の拠点施設。志岐に関する資料展示(常設展示)の他、年4回特別企画展を開催。展示以外にも国特別史跡原の辻遺跡を一望できる展望室やオープン収蔵庫や発掘資料の整理作業を見学できる観察路など展示以外の機能も充実。

01



10

男嶽(おんだけ)神社の石猿群

SPOT 10

猿田彦命(さるたひのみこと)が祭神。拜殿横の石段には200体を超す石猿が並んでいる。



11

筒城浜

SPOT 11

海岸線の全長およそ600mで志岐を代表する海水浴場。白砂青松の美しい浜は、日本古来の自然美を残した海岸風景で絶景である。



12

蛇ヶ谷(じゃがたに)

SPOT 12

勝本層の垂直節理が波によって浸食されて広がり、数10mの断崖になっている。辰ノ島海水浴場とは対照的に、男性的でダイナミックな風景である。



13

勝本朝市

SPOT 13

江戸時代に漁民、農民がそれぞれの産物を持ち寄り交換したのが始まり。現在でも毎朝とりたての海の幸、山の幸が所狭しと並べられ、地元の人とはもとより、観光客とも言葉交し合う風情がみられる。

SPOT 14 住吉神社
祭神は底筒男神(そこつつおのかみ)、中筒男神、表(うわ)筒男神、相殿に八千戈神(やちほこのかみ)で、明治4年、国幣中社に列格。

SPOT 15 春一番の塔
1859年(安政6)、春一番により地元の漁師53名が遭難した。昭和62年、郷ノ浦港入口の元居公園に、船の帆をイメージした「春一番の塔」が建てられた。

SPOT 16 志岐国分寺跡(志岐嶋分寺跡)
741年に聖武天皇の命を受けてつくられた国分寺の跡。島につくられたことから「嶋分寺(とうぶんじ)」とも呼ばれた。現在は、礎石だけが残る平地になっている。

SPOT 17 鬼の窟(いわや)古墳
6世紀後半～7世紀前半頃の築造。直径45m、高さは13m。内部は大きな玄武岩を幾つも積み上げた横穴式。

文永の役新城古戦場

SPOT 18

千人塚の中央に元寇殉国忠魂塔が建ち、左脇には観音像、右脇に本来の千人塚の標石である自然石が2基ある。

元寇の碇石(いかりし)

SPOT 19

左京鼻沖で発見された。中国製の石を使っているが、日本軍の船の碇石ではないかともいわれている。いまは少貳(しょうじ)公園にある。花崗岩(かこうがん)製。

老岐芦辺風力発電所

SPOT 20

年間平均風速6m/s以上の風が吹く老岐は、風の島。島の北岸に大陸からの海風を利用した風力発電所がある。

左京鼻

SPOT 21

海鷲(うみう)のおびたしいフンに覆われているが、遠目には武骨な玄武岩が化粧を施したように美しい。

はらぼげ地蔵

SPOT 22

六地藏は六道(地獄・餓鬼・畜生・修羅・人間・天)において衆生の苦患を救うという六種の地蔵である。海女(あま)で有名な八幡浦の海中に祀られている。

月読(つくよみ)神社

SPOT 23

京都の月読神社は、487年、老岐の県主(あがためし)の先祖忍見宿禰(おしみのすくね)が老岐から分霊したもので、ここが神道の発祥の地とされる。

海上山桜

SPOT 24

郷ノ浦町の半城湾では、春になると海面を覆うように桜が咲き誇る。海上から見る山桜は旅情豊かで、人々の心に残る春の風物詩となっている。

湯ノ本温泉郷

SPOT 25

老岐島北西岸、美しい島々に夕日が映える風光明媚な温泉郷。現在の泉源数17ヶ所、泉温は69℃、泉質はナトリウム塩化物温泉。

22



23



24



25



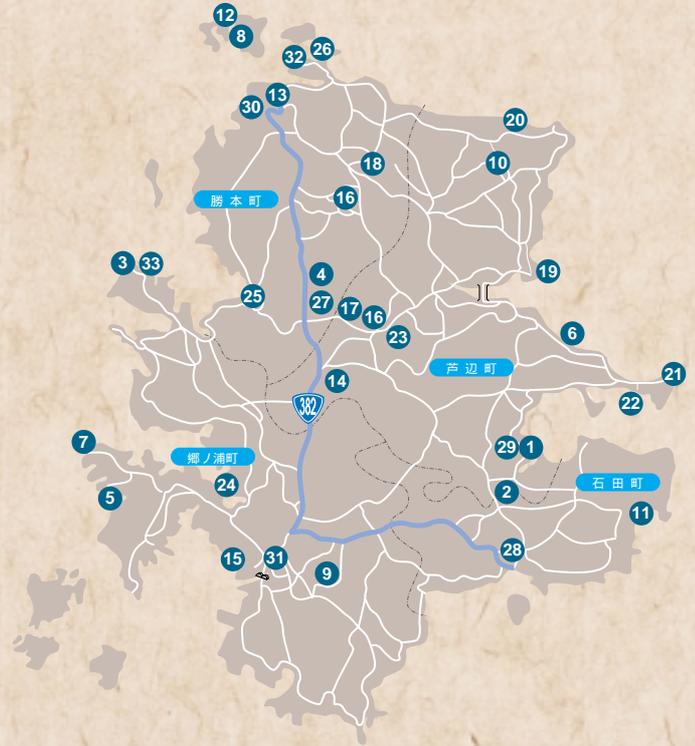
猿岩

SPOT 03

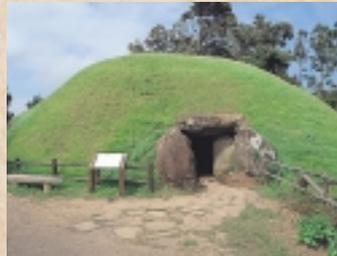
黒崎半島のさらに先端にある高さ45mの海蝕崖(かいしょくがい)の玄武岩。そっぽを向いた猿にそっくりで、気紛れな自然の造形に驚かされる。老岐島誕生の神話によると、「老岐の国は生き島である。神様が海の中でこの島をお産みになったとき、流されてしまわないようにと8本の柱を立てて繋いだ。その柱は折れ残り、今も岩となって折柱(おればしら)といわれている」とある。その8本の柱のひとつが猿岩である。



03



26



27



28



29

イルカパーク

SPOT 26

海とつながっている入江でイルカを飼育しているふれあい施設。自然に近い状態でのびのびと元気に泳ぎ回るイルカたちを間近で見ることができる。

掛木古墳

SPOT 27

6世紀末～7世紀前半の築造。円墳で、墳丘の直径は約30m。県下で唯一の「くり抜き式家形石棺」を持つ古墳として有名。

松永安左工門記念館

SPOT 28

「日本の電気王」・「電力の鬼」と称された松永安左工門の功績を伝えるために、生家跡に建設。生前愛用した所持品や文書などが展示されている。

老岐安国寺

SPOT 29

後醍醐天皇の死を弔うために足利尊氏の命を受けて全国66国と2島に建立された安国寺。老岐では元々あった「海印寺」を「安国寺」と改めた。

勝本城跡

SPOT 30

1591年(天正19)豊臣秀吉が朝鮮出兵にそなえて平戸藩主松浦宗信(まつらむねのぶ)に命じて築城させたもの。海拔78.9mの山頂部に築城。国指定の史跡。

国津意加美(くにつがみ)神社

SPOT 31

境内の狛犬(玉倉獅子・子抱獅子の一对)は老岐の名工・山内利兵衛(やまうちりへい)の傑作といわれている。1862年(文久2)献納。利兵衛63歳の時の作。

串山海水浴場

SPOT 32

勝本港の東海岸にある。磯あそびとして開放された(有料)磯物の宝庫・根島も隣接する。

黒崎砲台跡

SPOT 33

口径41cmのカノン砲2門の砲台で砲身の長さ18.83m、弾丸の重さ1t、最大射程距離約35km。一発も実弾を発射することがなかった。